令和6年度 第3回 尼崎市学校給食運営会議 議事要旨

日 時:令和7年2月19日(水)

午後3時00分~午後4時30分

場所:尼崎市教育・障害福祉センター

3階 教育委員会室

1 開会 (出席者 9 名、欠席者 2 名)

2 議事要旨について

第 2 回尼崎市学校給食運営会議の議事要旨の確認を行い、承認された。後日、市のホームページ に公開する。

3 議事

○傍聴申請者の確認を行い、傍聴希望者はいないことを報告した。(会長、事務局)

(1) 令和6年度学校給食実施状況について(事務局、委員栄養教諭)

令和 6 年度学校給食実施状況についての資料を基に、給食関係会議について、物価高騰に伴う学校給食費について、食育フェア「尼崎市学校給食展」について、学校給食における有機食材等の活用~SDGs への関心を高める献立~について、中学校給食献立コンクールについて、事務局より説明を行った。

小学校における学校給食を活用した食に関する指導例について

尼崎市立武庫南小学校における食育推進についての資料とパワーポイントを基に、栄養教諭 より以下の説明を行った。

- ・校内研究目標「自ら学び、仲間とともに豊かに育つ子どもをめざして」のもと、学習意欲に つながる持続可能な食育を目指している。児童の生活実態を把握した上で、「誰でも・どこ でも・いつでも」をコンセプトに「ちょこっと食育」も含め、全教職員・全教科において食 育を推進している。
- ・学年別に重点目標を定め、さまざまな教科から、身近にある「食」に興味を持ち、地域や社 会との繋がりを知り、児童自身が自分の生活を考えられるような学習を行っている。
- ・各教科に食を教材として取り入れることで、教科の内容を充実させる手立てとなっている。 食育を推進することで、児童の基本的な生活習慣を整え、実践力を育て、深く豊かな学びに 繋がっている。

中学校における学校給食を活用した食に関する指導例について

尼崎市中学校給食の食育の取り組みの資料を基に、栄養教諭より以下の説明を行った。

・市内で統一した食育を進めていけるよう、栄養教諭の所属校は週1回程度、担当校は月1回

給食時間の巡回指導を行い、生徒の喫食状況等を把握している。給食時間中の放送原稿を各 学校に送り、統一した給食放送を行っている。

- ・小学校と中学校の給食や量の違いを伝えるために、1 年生は 1 学期に食育集会を行っている。指導後はアンケートを取り、学校ごとに食育だよりを作成し、配付している。
- ・中学校給食献立コンクールは今年で2回目の実施。食材やネーミング等、工夫をこらした献立が選ばれ、市長賞に選ばれた献立は2月の給食で実際に提供した。他の入賞した献立の中から1品は令和7年度の給食で提供する。
- ・給食指導にあたる先生方から疑問や相談等を受けることもあるため、教職員を対象とした 給食指導に関するアンケート調査を実施した。給食指導に困った時のアドバイス集として まとめる予定である。
- ・給食試食会では主に栄養教諭が同席し、給食や栄養のことを話したり、学校給食センターの紹介 DVD を視聴してもらう学校もある。

※主な発言要旨

- (委員) 私が所属する中学校の給食試食会では、栄養教諭より給食の意味合いを説明して もらっている。参加人数が少なく、意外と給食に興味を持っていない保護者が多 いのかと寂しく思う。参加率を上げていきたい。
- (委員) 私が所属する中学校では給食試食会をしていない。給食試食会をやってほしいという声は聞く。
- (委員) 武庫南小学校は兵庫県食育推進校指定を受けたから食育推進の取り組みをしているのか。推進校指定ではない学校も取り組んでいるのか。
- (委員) 各校で食に関する指導の全体計画は作成しており、各校でできることをやっている。教科との連携は、使用している教科書も市内統一なので、各校のやり方で教科書を活用している。
- (委員) 栄養教諭の先生方が非常に頑張っておられることが分かった。中学校の給食センターに栄養教諭が4人ということで、これから増えるといい。
- (事務局) 自校方式とセンター方式によって法律で栄養教諭の配置規定が異なる。
- (委員) 週1回と月1回の巡回では明らかに違う。できるだけ先生方が現場を回られる のがいい。
- (委員) 教育媒体としてパソコンを使って提示することが基本になっているのか。
- (委員) 子どもたちに1人1台タブレットがある。たくさん経験はさせてあげたいが、 費用や日程の制約があるため、オンラインを活用できるところは大いに活用している。
- (委員) 子どもたちはオンラインを抵抗なく受け入れているのか。
- (委員) 受け入れている。オンライン工場見学では遠くへ行ったつもりになれている。
- (委員) 武庫南小学校は教育目標や研究目標がきちんと整理されて、食育の計画を立てておられるいいケースである。教科横断的に食育を進められて、いい取り組みをされている。中学校は給食が始まって4年目になり、献立コンクールや給食試食

会等、食育という環境が整ってきたと思う。

- (委員) 武庫南小学校の食育は、生きるための基本となる食を教科から学び、生活のいろんなところで食と関わっていることを子どもたちに伝えられている。中学校の食育は、献立コンクールという自ら献立を考えることで、食への興味を向上できる取り組みである。尼崎市では食の関心が下がりつつある。子どもの時から食を身近に感じ、大人になった時にも、食に興味・関心を持っている人が増えてほしい。
- (委員) 栄養教諭の先生方は、今後の課題を何か感じておられるか。
- (委員) 算数の教科書等でも単元のまとめ学習で食に関する応用問題がある。意識調査を した中で、学習したことを生活に活かせるようになっているかは、数値的には高 くない。学習したことを生活に活かせてこそ学びの深まりがあることに気付け るようにしていきたい。
- (委員) 家庭科や食育集会で食の大切さを指導するが、指導した後も残食はある。学習したことをどれだけ自分事として捉えられるようになるのか、伝え方を日々考える。
- (委員) 食育は、短期間で成果が目に見えることは難しいかもしれない。長い目で見る必要がある。

○会議の運営について(会長)

議事(2)については、教育予算に関する事項が含まれるため非公開とする。

~~~ 以下、非公開とする ~~~

# 4 閉会

以上